

学習者主体の学びを目指して —『ナニカのたね』を育てよう—

公立小学校教員

1. はじめに

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「個別化」「探究化」「協働化」を視点として授業改善に取り組み、『児童が自分で選び決め、探究に浸り、協働して共に生かし合う』学習過程を大切に実践に挑戦した。

2. 『ナニカのたね』との出会い(事象提示の工夫)

比較的丈夫で栽培しやすく、育ち方、種子や花、葉の形態がおもしろい植物の種子を8種類用意して、児童一人ひとりにプレゼントする。「たねのくらべっこをしよう」と投げかけ、形・色・大きさも様々である種子の魅力に充分に浸れるようにする。ここでは、児童がその植物の名前や成長の様子を予想し、期待感をもって活動してほしいと願い、何という植物の種子なのかはあえて伝えないようにした。

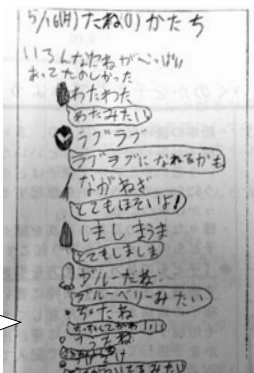


8つのたねの種明かしです！
 ・マリーゴールド ・ホウセンカ
 ・ミニヒマワリ ・フウセンカズラ
 ・オクラ ・オシロイバナ
 ・オジギソウ ・ワタ

3. 「わたしのお気に入りのたね」(個別化)

次に、8種類の種子の中から、「お気に入りのたね」としてどの種子を育てたいかを児童自身に選ばせ、1人1鉢で種まきをする。そうすることで、児童の興味・関心を耕し、植物の成長を楽しみにしながら、大切に世話や観察をする意欲の持続につなげる。

たねのくらべっこの際、Aさんはそれぞれの種子に、名前をつけています。吹き出しにして、気づきや思いをお話するように表現していききました。



4. 大きくなったよ！『ナニカの植物』(探究化)

児童の継続観察の活性化を図るため、観察の視点を焦点化する。「今日は、自分の一番お気に入りのところをくわしく見てみよう」「前と変わったところを見てみよう」「今日は色に注目して記録をかいてみよう」「どのくらい大きくなったかな」等、具体的に声かけをしていく。また、友達の植物と比べて、似ているところや違うところにも目を向けられるようにする。ルーペ等も使って植物の体のつくりを焦点化して観察し、拡大した図で記録することによって、細かい部分ま



児童たちの観察の様子

でよく見ようと、様々な気づきが生まれる。

5. 『ナニカのたね・植物』の種明かし(協働化)

多くの植物を同時に育て、観察していく中で、児童たちはその育ちや形態の共通点や差異点に自然と目を向けていく。植物の体のつくりや成長の過程を考察するとき、育てている植物の種類が異なる児童でグループ編成することで、より協働的な活動につながると考える。「私のは○○という名前だったよ！公園に同じ花が咲いていたんだよ」「私のは風船みたいな実ができて、図鑑で調べたらフウセンカズラって分かったよ」「この実、オクラじゃない？」など、児童は、友達や家庭の方ともたくさん交流しながら、自分や友達の『ナニカのたね』の種明かしをしていく。実の中から出てきたたくさんの『ナニカのたね』に、再び出会ったときの児童たちの顔はとてもすてきです。